



さくらみ川

第五十九号 平成十八年十月十五日

熱日高彦神社社務所

電話 〇三四 六一〇四一

<http://hitaka.org> atuhitaka@hitaka.org

熱日高彦神社創祀千九百年記念

社殿並境内修繕十一月竣工予定

御神体を社務所から本殿へお遷しする正遷座祭と工事完成を奉告申し上げる竣工奉告祭が来月二十二、二十三日に迫りました。

日本武尊が東征の折当地を訪れ、聖地を選び天孫をお祀りしてからまもなく千九百年。慶節を迎えるにあたり、先ず手がけた社殿と境内の修繕整備工事が、予定通り竣工できる見込みとなりました。これを受け、新嘗祭に併せて次の通り斎行いたします。

正遷座祭 十一月二十二日(水)

午後六時より

竣工奉告祭十一月二十三日(木・祝日)

午前十一時より

仮遷座祭より充実した厳肅な正遷座祭、竣工奉告祭の盛儀を氏子崇敬者こそぞって味わいたく思います。また、御神体をお遷しする前に、修繕された社殿内を皆さんにぜひご覧頂きたいと思っております。

詳細はあらためてご案内いたします。

事業だより

ご浄財誠にありがとうございます

篤志奉賛徐々に 更なるお呼掛けを

氏子内にお願ひしたこの度の記念事業費奉賛金は、各地区の総代さんたちを通じて順調に寄せられ、平成二十年春迄に、目標額を超えてまとまる方向に運んでいます。心より感謝申し上げます。なお予想以上の社殿の傷みによる掛り増し等あり、篤志の奉賛をお願いしておるところであります。

それに先駆けて、漏れ聞いた崇敬者からご奉賛いただくなどしており、予想をこえた志に、有難さと、あらためてご神威の大きさを感じている次第です。現在、氏子区域内外篤志家に呼びかけている寄付についても、崇敬者、事業者、取り子、縁故者などから幅広く奉賛が寄せられております。

当初、参拝者が百段強の表坂石段を上って参拝し、一休みする場所や便所も欲しいということから始まった事業でしたが、第一次の社殿・境内の整備修復につづき、第二次としての参拝者向け施設等の事業も方向性が見えてきたようであります。

これをいっそう可能にするため、改めて皆様のお心当たりの崇敬者にお呼び掛けをお願いするものであります。

九月節供は新暦十月三十日

今年の稔りを祝う祭

「お節供」として家々の神棚や祠に幣束を立て、お供物を供えてお祝いする九月節供は旧暦で行われています。通常の暦で今年は十月三十日。今年は七月が閏(うるふ)で二回あったため、去年より二十日ほど遅れました。

「節供」は元々、月日に同じ奇数(陽)の数字が並ぶ神聖な日です。一月一日(七日)、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日がいわゆる「節(せち)」です。元日(七日は人日)、上巳、端午、七夕、重陽の五節供で、夫々楽しい日。

中でも重陽の節句の九月九日は、作物、ことに稲の穫り入れと大きく関っています。新米のご飯を稲つとに入れて、家の神々、氏神様にお供えしてきました。穫り入れが間に合わないときは、それに合せて上げました。象徴の菊花も新暦の九月では間に合わなかったのです。

七五三詣は例年通り

十一月十二日を目安に

今年の七五三詣は十一月十二日の日曜日を中心に準備いたします。

十一月十五日に氏神様に子供の成長を奉告して、さらにご加護をいただくようにお参りするの本来の七五三詣の姿です。



しかし寒冷な当地では、できるだけ早い、暖かいうちにといい思いがあります。また幼稚園や学校、親のお勤め等を考慮すると、せいぜい十一月十二日の日曜日ということになります。

実際はそれより早く、十月末頃から申込みがあり、お受けしておりますので、早めに神社に問い合わせてください。今年はその時期、神様はまだ社務所の御神座においでですので、社務所でお参りいただきます。

社頭 あれこれ

今年だけの特別な夏祭

社務所仮御座所を中心に

長かった梅雨が明け夏本番を迎えた八月五日、夏季例祭が斎行されました。

工事に伴い、御神体が社務所の仮御座所にお鎮まりになっていること、境内広場が使用できないことなどから、今年の夏祭は社務所を中心に行われました。仮殿で例祭を行った記録は過去に見当た

りません。お祭広場も車被所に設定。神賑行事は初めてカラオケ大会を開催しました。戸惑いもありましたが、景品も配られ盛り上がりました。今年かぎりの夏祭は、特別な趣があり、新たな可能性を感じさせてくれました。例年と変わらぬご協力をいただいた皆様に感謝いたします。



黒須貫禰宜神職身分二級に昇進

当神社黒須貫禰宜が九月十日付で神職身分二級に昇進し、二十日神社廳で伝達式がありました。式には総代長も同行、厳粛なうちに廳長から証書が手渡されました。

二級になると袴が紫、正装の袍(ほう)の色が赤になり、冠も紋が入ります。勤務年数や成績の外、神社や社会、神社界への貢献度などを考慮して与えられる身分です。昇給の基礎条件は多くの神職が持っていますが、最も早い時期の授与となりました。氏子の皆様のご協力の賜物です。神賑での奉告は新嘗祭に併せて行います。

上棟祭などに奥様方のご協力

八月十日、



幣殿上棟祭を行いました。夏祭後のあわただしい斎行でしたが、支えて下さったのが総代さん

とその奥様方。今回は佐藤敬子、佐藤末子、渡部幸代、佐藤光子さんらが、前日の餅つきよりご協力くださいました。これに限らず、神社の諸祭典は総代さんの奥様方や、有志ご婦人により賄われております。

お宮参りおめでとうございます

一区 齋藤 修さん

直美さん

長女美伶ちゃん



「心待ちにした女の子。うれしさは言葉で言いあらわせません。元気でやさしい子に育って欲しいと願っています。」

神社Q&A

Q 神さまにお供えするものを教えてください

A 地鎮祭などの時、何をお供えしたらいいのか聞かれます。祭には必ず、神殿や神棚ではその前に、それ以外には神様をお迎える御幣(ごひらひ)をく(の前)に、お料理をお上げします。今は調理前の形でお供えます。

神様のお供えは「神饌(かみせん)」とよび、基本の品が決まっています。

饌米(白米一升てい)

神酒(お酒一升てい)

鏡餅(重ね餅、だいたいは紅白)

掛魚(尾頭付、鱈のある魚、赤色が多い)

掛鳥(羽毛のままの鳥、または卵)

海菜(海藻等、海産の干物が主)

野菜(季節のもの)

果実(季節のもの)

菓子(特に決りなく、色香を考慮して)

塩水(塩と水)

家庭の祭ではこの中から事情に応じ、神さまにお上げするのにふさわしい上等の物を準備します。

ではなぜ神様に食物をお供えするのでしょうか?

衣食住は生活の条件とされていますが、なかでも食物は生きるための必須条件です。

たとえば、毎朝神棚にお水を上げます。「活き

る」は舌に水を含むの意味。水こそ生活条件の極み。神様に「今日もお陰様で、家族皆元気に生きてい

くことが出来ます。これからもお守り下さい。」という意味が込められた、最低限の「神饌」なのです。

家々の屋敷神様を「お稲荷さん」ともお呼びしませんか。稲荷さまは「保食(うけもの)の神」と称し、主に食物の神様です。実は屋敷神様は「先祖様です。祖先の神様はいつも子孫の食物、つまり生活をお守り下さっている」という事なのです。

その食物がこんなに豊かに頂けていますと神様

にお示しし、感謝するのがお祭の本義です。神饌はお祭の中でもっとも大切なものなのです。

神饌は、もともとは直ぐ食べられる形に調理してお供えしたようです。それを、神様と一緒に食べるのが「直会(なおらい)」。神様のお恵みを共にいただくわけです。神饌は今では生のまま供えるのが常ですが、調理した形で供えている神社もあります。明神講や葬祭、霊祭(法要)の折には現在でも調理したお膳の形で供えられます。

なお、直会で神主は神様の分を代って食べたものによつてです。それで神主を「別当(べっとう)さん」と呼ぶのだと言う人がいます。本義ではないにしても、うなずけます。お供えを神様にお上げる意味で神主に渡すのですね。

なお、家それぞれ歴史があつて今がある。家々にしきたりがあれば、大切にしたいものです。



お日高さんの自然

モミ (マツ科)



十月も半ばを過ぎるとキノコのシーズンも終りに近づく。この頃になって毎年遅く出るキノコが顔を出す。身近で大抵の人が知っている代表的なのがムラサキシメジとアカモミタケアカリ。アカモミタケはご存知の通り、モミの木の中に発生する。一般にモミの大木が残っている山は古く、人の手によって攪乱されていない場所である。キノコ採りにとって目標の一つと考えてよい。

角田市内でモミの原生地といつと斗蔵山が知られているが、熱日高彦神社も昭和二十年代までは境内林をモミの古木が覆っていたし、今日でもモミの大木が目立つところでもモミはマツ科のなかまであるが、その生態も形態もかなり違う。モミやシラヒソなどのモミ属では、若い球果(マツボックリのような物)でも乾燥すると果鱗(外側のつるつる状のもの)

の外れ落ちてしまい、標本づくりに苦労するが、これがモミ属の大きな特徴である。

モミはクリスマスツリーなどに使われるので親しみやすく、子供でも知っている。大木になると高さが三五〜四〇センチ、幹の直径が一五〜二〇センチに及ぶ常緑針葉樹である。若い枝の先端は鋭く二つに裂けている。花季は五月。雄花は前年枝の葉腋(葉の一部分、葉の付着点のすぐ上)に一個ずつぶら下がって開花する。雌の球果は前年枝の葉腋から出る短い枝に単生し、黄緑色で直立して付き、同じ年の十月には成熟して褐色になる。本州の岩手、秋田以南、屋久島以北に分布する。暖帯針葉樹林の主要な樹種である。材は白く柔らかく、パルプ器具材、当地では建材としても使われてきた。

一般的には、特に広く棺に用いられているようである。工作しやすく、土葬では早く腐るからという。(文ノ小島和夫氏)

ご奉納・ご奉仕

- 米、魚、野菜、果実など奉納
- 各区 神社総代各位(夏季例大祭)
- 一区 齋藤實、佐藤雅邦、只野吉次、赤坂敏栄、黒須嘉次男、木幡市郎、佐藤幸男、畑栄一、佐藤俊一、只野律子、赤坂武雄、只野亨、齋藤松子、齋藤正次郎、齋藤茂夫、赤坂誠
- 二区 戸村賢治、只野政義、渡辺郷司
- 三区 佐藤善一、三品久志、小野勝、戸村勝美
- 四区 佐藤武覚夫
- 七区 荒井兼子

大張 菅沼昭男

境内整備など奉仕

各区 神社総代各位(事業に伴う境内整備等)

- 一区 山家隆(境内整備など)
- 二区 渡辺郷司(境内整備) 竹内政夫(道路補修)
- 三区 佐藤善一、佐藤勝征、佐藤善通(境内整備)

社頭暦

- 十月 一日 月次祭
- 六日 ご縁日
- 三十日 重陽節句(旧九月九日)
- 十一月 一日 月次祭
- 六日 ご縁日
- 一二日 七五三詣
- 二二日 正遷座祭
- 二三日 新嘗祭 竣工奉告祭
- 十二月 一日 月次祭
- 六日 ご縁日
- 三二日 大袂 越年祭

編集後記

「工事もいよいよ大詰め。先日総代さんに拝殿の洗浄と広場の柵作りをご奉仕いただきました。進捗状況を気にかけてお力を貸してくださる方もいます。『できることは自分たちで』という姿勢がこの事業を可能にできたと思います。『お宮参り』は新しく氏子になること、即ち地域の仲間入りをすることです。新しい命を皆でお祝いし、育んでいきたいと、紹介欄をもつけました。